

(4)性問題行動の背景要因

性問題行動にいたる要因として、主に、次のものが考えられます。要因は1つだけとは限らず、複数の要因が関連することもあります。

①子ども自身の特性

- ・発達の遅れ、衝動統制の困難さなど
⇒子ども自身への働きかけが必要

②性行動のモデリング(周囲から学ぶこと)

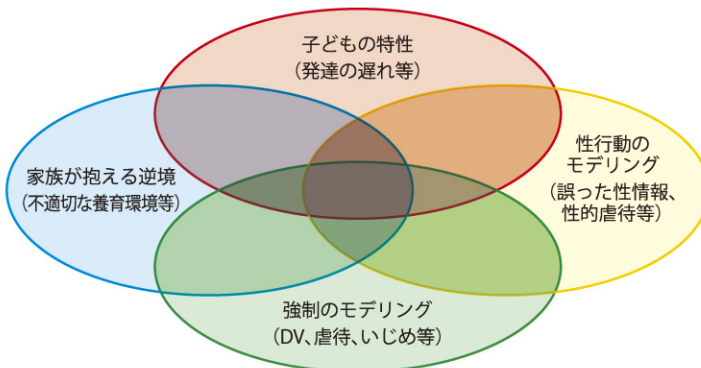
- ・家庭内での不適切な性情報(ポルノ)の暴露、性的虐待など
⇒家族・社会への働きかけが必要

③家族が抱える逆境(課題)

- ・保護者の精神疾患、薬物乱用、不適切な養育態度など
⇒家族への働きかけが必要

④強制のモデリング(周囲から学ぶこと)

- ・家庭内暴力(DV)、いじめなど
⇒家族・社会への働きかけが必要



< Fredrich,W.N., Davis,W.H., Feher,E., and Wright J. (2003). Sexual Behavior Problems in Preteen Children: Developmental, Ecological, and Behavioral Correlates. Annals of the New York academy of sciences. 989(1). 95-104. を一部改変 >

注) 上記の要因により、子どもが否定的な感情(怒り、不安など)を抱くことで、性問題行動につながっていくといった意見もあります。

(5) 性問題行動が生じる基本構図

性問題行動は「たまたま」起こるものではありません。

性問題行動に至るまでには、以下の「4つの壁」(バリア)があります。

これら全ての壁(バリア)を乗り越えた結果として、性問題行動が生じます。

性問題行動を防ぐためには、これらの壁(バリア)を強くしていく必要があります。

第1の壁:動機(健全な性的はけ口)

この壁を越える方法は、誤った性的思考(誤った動機)です。この背景には、「満たされない気持ち」、「性的興奮」、「妨害」等があります。



第2の壁:内的バリア(良心)

この壁を越える方法は、自分の都合の良いように言い訳(「大丈夫」、「バレない」、「相手も嫌がっていない」等)することです。(思考の誤り)



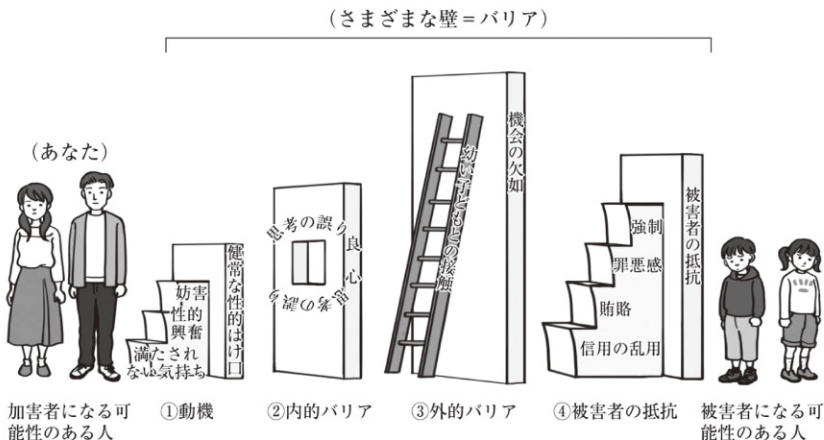
第3の壁:外的バリア(機会の欠如)

この壁を越える方法は、「機会を作る」ことです。実際に被害者へ近づく方法を考えて(プランニング)、行動に移します。



第4の壁:被害者の抵抗

この壁を越える方法は、「信用の乱用」、「わいろ」、「強制」等を用いて被害者の抵抗を抑圧することです。



< 司法・犯罪心理学 藤岡淳子編 有斐閣2020年 >

第2章 「気づく」:子どもの性行動のアセスメント(課題分析)

子どもが性的な行動を見せると、大人は戸惑い、悩み、時には過剰に反応してしまうこともあります。しかし、性的な行動の中には健全なものもあるので、大人側が正しい知識を持ち、冷静に対応することが大切です。

ここでは、健全な性行動と問題となる性行動を見分けるポイントについて説明します。



～性問題行動の程度を判断するポイント～

(1) 健全な性行動

① 性の発達

(0歳から6歳)

【性的知識】

- ・3歳頃までに自分と他人の「ジェンダー(男女の性)」を認識する
- ・6歳頃までに妊娠・出産を理解する(帝王切開と自然分娩の違い程度)
- ・大人の性行動や親密性については「見たこと、聞いたこと」に影響される
- ・キスとか、「抱き合う」ことについては知っている

【性行動】

- ・乳児や幼児では自分の性器を触り安心を得ることはあるが、大人と異なり性的ファンタジーはない
- ・好奇心。2～5歳は裸を見たがる
- ・母親などの胸を触る、異性の服を着てみるなどはある
- ・性的遊び(自分の体を見せたり触ったり、他の子どもの体を触ったりする)はあまりない

(7歳から12歳)

【性的知識】

- ・10歳頃までには、「子どもはどうしてできるか」、妊娠と出産について知っている
- ・ただし、正しい知識に触れ、教育を受けているかどうかでその正確さは異なる
- ・周囲の大人が忌避していると、映画、雑誌、歌、インターネットなど別のルートから(ときに不適切な)情報を得る

【性行動】

- ・7～8歳でさまざまな社会のルールを理解し、ほとんどの性行動が許されないことを理解する
- ・他者の目から見えにくくなるが、性行動は起こっている
- ・自慰が(特に男の子では)増え、異性に興味を持つ
- ・13歳までに7～10%が性交を含む性行動を経験する

② 年齢相応の健全な遊びとは

健全な性的な探索や遊びは、子どもの発達過程で見られる普通のことです。

(例)

- ・見たり触ったりして情報を集める。ごっこ遊びを通じて性の違いによる役割や行動を探索する
- ・同年代、体格や発達段階も同等、双方自発的な関係である
- ・性行動の種類や頻度も限定的である
- ・生活の他の面と比べて突出していない
- ・多少戸惑っても深い感情は引きずらない
- ・大人に見つかってやめなさいと言われたら減少する



(2) 問題となる子どもの性行動とは

次のような場合、何らかの理由で、子どもの対人面・認知面の発達が妨げられている、つまづいているサインの場合があります。

(例)

- ・長期にわたって続いている場合
- ・頻度が高い(しょっちゅうやっている)場合
- ・年齢や発達の能力差が大きく異なる場合
- ・大人が介入しても、頻度が減らない場合
- ・性器を痛めるような方法でする場合
- ・強制や脅迫、暴力が用いられる場合
- ・感情的苦痛(恐怖・不安)を伴う場合

<Silovsky 2009年>

